

令和元年度 吹田市教育研究大会報告

令和元年11月20日発行 吹田市教育研究大会事務局

8月27日(火)に令和元年度吹田市教育研究大会を開催しました。本大会は、教職員と教育委員が一堂に会し、吹田市の教育の方向性を共通理解し、学びを深める場として平成19年度より始まりました。以降、形態を少しずつ変えながらも回を重ね、これまで続けてきた大きな大会です。今年度も「今 吹田から 未来(あす)の力を ~地域に根ざした質の高い公教育の創造~」をメインテーマとし、重点課題である「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」をサブテーマに据え、開会行事として教育委員のみなさまからメッセージをいただき、講演会では大阪体育大学の 高橋 明 客員教授に「可能性を信じて~変化する素晴らしさ~パラリンピックを通して~」をテーマに御講演いただきました。



以下に教育委員メッセージと高橋先生の講演の要旨を紹介します。

〔原田教育長 開会挨拶〕

吹田市の英語教育の推進をきっかけとし、吹田の子供たちが日本国内だけでなく、グローバルな視点をもって、世界とつながることができる力、また、国際感覚や多様性を育てていただくことを願っています。さて、本市の教育課題として、いじめの問題が報道でも大きく取り上げられ、本市の喫緊の課題となっております。いじめの問題を最重要事項として、本市の今後の教育について議論を重ねていく予定でございます。吹田のすべての子供たちが「ともに学ぶこと」に喜びを感じ、瞳を輝かせて、学校・園での生活を送れるよう、よりよい環境整備に努めます。また、教職員の方々には、授業づくりや子供たちが安心して学べる集団づくりをさらに充実したものにさせていただくことを期待しております。

〔教育委員メッセージ〕

谷口教育長職務代理者

小さな問題に丁寧に対応していくことでトラブルを回避することができます。いじめも同様に丁寧に対応し、共有することで重大な事案が起こらないと思います。教員の中で子供たちのことを常に共有し、素晴らしい吹田の子供たちを育ててほしいと思います。

和泉委員

人の立場を思いやる気持ち、人の行為に感謝する気持ちは、心の豊かさを成長させるひとつのファクターになります。また、心の余裕を持ち、笑顔で子供たちと接することで、様々な問題も早期発見、早期解決にもつながると思います。笑顔で未来を担っていく、また未来を拓いていく子供たちに先生方のさらなるお力をいただきたいと思います。

安達委員

“自分が普通”ではなく、“世の中には、いろいろな人がいる”ということを知ることが、いじめをなくすためにも大切なことです。学校の中でもそのことを子供たちに伝えていただきたいと思います。

福田委員

読書は自分の知らない世界に連れていってくれるとともに、グローバル社会のコミュニケーションの基礎になります。自分で深く考えていくことにもつながる大切な習慣です。楽しみながら読む機会を増やすために、読書の環境づくりを進めていただきたいと思います。

和田委員

吹田の子供たちの誰もがぶつかるであろう“停滞期”という壁から逃げることなく、忍耐強くやり抜いてほしいと思います。それが生きる力となります。吹田の子供たちの持っている力、潜在能力が引き出せる指導をこれからもよろしくお願ひします。

〔大阪体育大学 高橋明 客員教授 講演要旨〕

高橋先生からは、障がい者スポーツの理念を通して、多様な人々と共に生きるグローバル社会において、目の前の子供たちが、笑顔でいるために日々どのような力をつけていけばいいのかを示していただきました。

「何ができないのか」とマイナスに考えるのではなく、「何ができるのか」とプラスの方向へ想像力を働かせることが大事であること。どのように工夫したらできるのかを創造力を働かせることで、できなかったことができるようになること。工夫することで自分の可能性を信じてチャレンジしていける自信と勇気が生まれることなど、私たちが日々の生活で大切にすべきことについて、パラリンピックや障がい者スポーツの映像とともに具体的に御紹介いただきました。

「失ったものを数えるな。残ったものを最大限に活かせ」という言葉から、人間の可能性を信じることの大切さや、個性・特性を違う場面で不便さを感じていても工夫すること、同じ目線に立つことで相手を理解し、共にスポーツを楽しむことができるということも再認識できました。

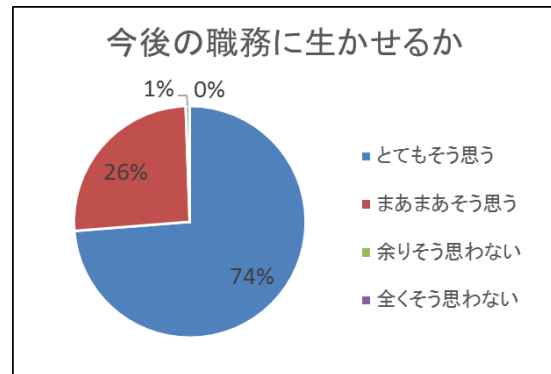
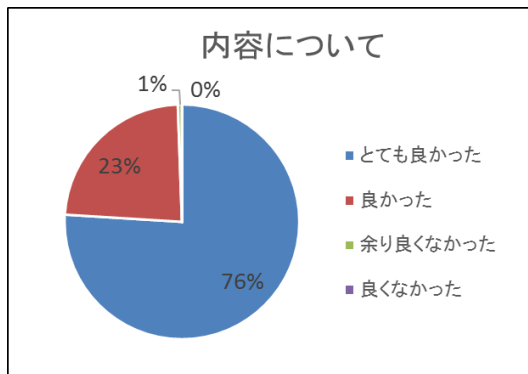


〔研究大会について〕

1. 教育研究大会参加者 200名

内訳	幼稚園	小学校	中学校	合計
人数	21名	118名	61名	200名

・ アンケートについて 回収数 180通 (回収率90%)



項目	人数
とても良かった	136人
良かった	42人
余り良くなかった	1人
良くなかった	0人
無答	0人

項目	人数
とてもそう思う	132人
まあまあそう思う	46人
余りそう思わない	1人
全くそう思わない	0人
無答	0人

＜参加者の声から＞

- 「失ったものを数えるな。残ったものを最大限に活かせ」という言葉がすごく印象に残りました。障がいのある方と一緒に過ごす中で工夫したり、何がその人に対しての本当の思いやりなのか考えたりすることを、子供たちと一緒にしていきたいです。
- いかに自分の視点が足りなかったか、今日は痛感しました。全盲の方の待ち合わせ、義足だと分からない地面の感触など、視点や姿勢をもっと柔軟にしながら、パラスポーツについてもっと色々学びたいと思いました。
- 障がい＝ハンディキャップではない。不便だと感じることをハンディキャップだという考えをもって子供たちと関わることが大切だと思った。
- 可能性を信じてというテーマにぴったりでした。目の前で一緒に過ごす子供たちも、たくさんの人やたくさんの方のことに会い接していく経験を重ねられるように、子供たちの背中をちょっと押してあげたい。